

[様式11]

(対象事業：美術館・博物館の自主企画による諸外国との交流展覧会等の事業)

事業名：モニカ・ニーランドの花の世界

～数寄屋建築に遊ぶ

事業者名：財団法人古川会

古川美術館・爲三郎記念館

連携事業館名：なし



住所：名古屋市千種区池下町二丁目50番地

TEL：052-763-1991

FAX：052-763-1992

HPアドレス：<http://www.furukawa-museum.or.jp/>

①施設概要

爲三郎記念館は、急勾配の斜面に建てられた数寄屋造りの母屋と、椎の大木が茂り、四季折々の美しさをみせる日本庭園、そしてその中にひっそりとたたずむ茶室から成り立っています。103歳で天寿を全うするまでここを終のすみかとした初代館長古川爲三郎の「創建時の数寄の姿をとどめる邸宅を皆様の憩いの場に」という遺志により平成7年11月3日から広く公開するようになりました。

②事業の意図目的

爲三郎記念館は日本の伝統的な建築様式である数寄屋建築で建てられています。当地愛知県におきましては、国際博覧会「愛・地球博」が開催され諸外国からの注目が集められておりますが、今年度、当財団では“日本の美再現”をテーマに、日本独特の風土が生んだ美しき日本の魅力を再確認する事業活動を実施しております。その集大成として、ドイツ人フラワーアーティストのモニカ・ニーランド氏を招聘し、モニカ氏が爲三郎記念館を舞台に創作する生花作品を発表し、外国人作家の視点から数寄屋建築の美を掘り下げようと試みます。また、モニカ氏を講師とするフラワーアレンジメント講習会の実施により、外国人作家との文化交流の発展を図ろうとするものです。

③事業概要

1. 作品制作・展示作業

モニカ氏来日後、作品公開の前日までの4日間、爲三郎記念館にて作品の制作及び展示作業を行います。その際、日本フラワーデザイナー協会会員のアートフラワーデザイナー横江佐恵子氏、並びに、井野口守政氏など日本のフラワーアーティストの方にも助手として参加していただき、モニカ氏との交流の場を提供します。

2. 作品公開

作品制作後の4日間、爲三郎記念館を一般に公開し、制作された作品を来館者に鑑賞いただきます。

3. アーティストトーク

作品公開の初日、モニカ氏に作品の見所やコンセプト、日本の伝統的建築様式である数寄屋建築で作品を制作した感想などを、作品を前に来館者にお話いただきます。

4. 講習会

モニカ氏より、一般公募者へクリスマスフラワー作品2点の制作を指導いただき、世界の第一線で活躍している海外アーティストとの交流の場を設けます。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他(なし)

作成した報告書等

ビデオ(なし) / 冊子(なし) / その他(なし)

⑤参加者状況

参加者人数 延べ1,114人(内訳/作品公開：大人999名・大人(身障者)6名・高校・大学生53名・小学・中学生5名/講習会：大人51名)

(1) 事業の実施状況について

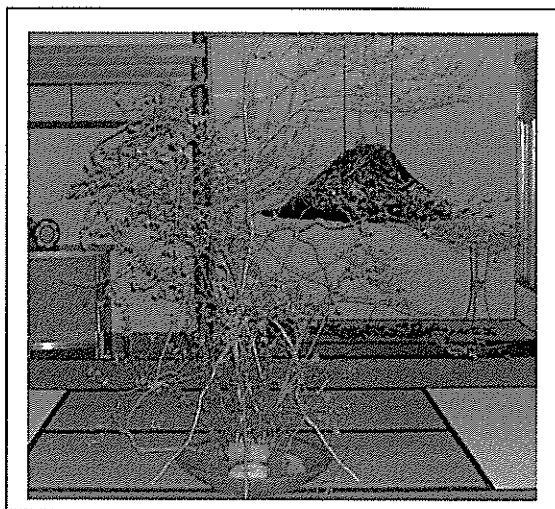
1. 作品制作・展示作業

モニカ氏来日後、作品公開の前日までの4日間、爲三郎記念館にて作品の制作及び展示作業を行いました。その際、日本フラワーデザイナー協会会員のアートフラワーデザイナー横江佐恵子氏、並びに、井野口守政氏など延べ9名の日本のフラワーアーティストの方にも助手として参加していただき、作品制作・展示作業を通して、モニカ氏との交流を図りました。

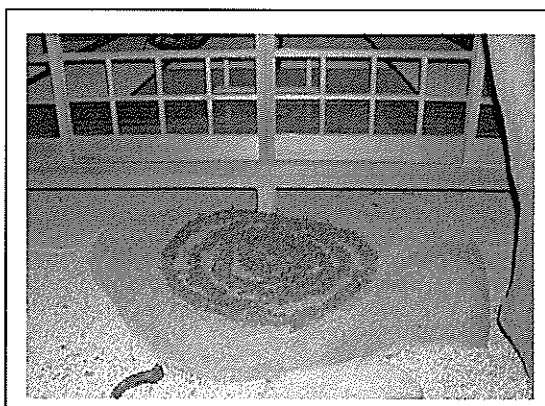
2. 作品公開

作品制作後の4日間、爲三郎記念館を一般に公開し、制作された作品を来館者に鑑賞いただきました。展示作品数は当初の予定点数11点を大幅に上回り、爲三郎記念館の邸内と庭園内の随所にモニカ氏の作品が展示されました。

事前のパブリシティが功を奏し、多くの方々にご来館いただきました。



床の間には、富士山をモチーフにした海苔を使った作品が展示された。



沓脱石にも作品が展示された。

3. アーティストトーク

作品公開の初日、モニカ氏に作品の見所やコンセプト、日本の伝統的建築様式である数寄屋建築で作品を制作した感想などを、作品を前に来館者にお話いただきました。

4. 講習会

モニカ氏より、一般公募者へクリスマスフラワー作品2点の制作を指導いただき、世界の第一線で活躍している海外アーティストとの交流を図りました。参加人数は当初予定の40名を上回り51名の方が参加されました。（制作した作品については別紙参照）

（2）参加者の反応

※来館者からのアンケートの回収は実施しなかったため、職員が聞いた来館者の声を箇条書きにさせていただきます。

1. 作品制作・展示作業

- ・モニカ氏の作品制作に対する姿勢と共に、彼女の人柄の良さも素敵だった。
- ・生花であるので、制作中と展示期間中の花のお世話が大変だった。

2. 作品公開

- ・モニカ氏の様々なアイデアや演出のおかげで、素晴らしい作品が見られた。
- ・日本家屋の爲三郎記念館の部屋に合ったモニカ氏の作品に感激した。
- ・爲三郎記念館の部屋の空間が立体的に使われていて素敵だった。
- ・富士山をモチーフにした作品など、日本を意識した作品が多く展示されていたが、爲三郎記念館の雰囲気とのマッチングがおもしろかった。
- ・爲三郎記念館の新しい魅力を発見した気がした。
- ・作品の題名やテーマを解説したキャプションがあるとよいと思った。

3. アーティストトーク

- ・それぞれの作品に使用している花の名前や、作品制作のコンセプトが知りたかったので、モニカ氏自身から話が聞けてよかった。
- ・モニカ氏と司会・通訳の方の息のあったトークで、かなり大勢の人で混雑していたにもかかわらず楽しく話が聞けた。
- ・もう少し時間を掛けて話を聞きたかった。

4. 講習会

- ・作品と花材が多くて、帰りに持って帰るのが大変だった。

・制作に時間がかかり大変だったが、モニカ氏から直接指導してもらえ嬉しかった。

(3) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

国際博覧会「愛・地球博」の開催を契機に、当地愛知県におきましては、訪れる外国人の日本固有の文化に対する関心の高さが感じられ、博覧会で開催された茶会などの催しは多くの外国人が参加し盛況であったと聞きます。

しかし、美術芸術の国際交流に関していえば、海外の美術館との恒常的な提携・交流は、近隣施設であれば名古屋ボストン美術館のような規模の大きな施設では当然の活動であります。こと、当財団のような一介の私立美術館での交流に関してはあまり例を見ず、また、交流の内容としても作品の貸借が多いのではないかと思います。

一方で、一般来館者の美術鑑賞に対するニーズは多様化しており、今年開館 10 周年を迎える爲三郎記念館では、必ずしも多くはない収蔵品の中で、展示内容のマンネリ化への危機とともに、新たな試みの必要性を痛感しておりました。

そうした状況の中、今年度当財団では“日本の美再現”をテーマとして掲げ、日本独特の風土が生んだ美しい日本の魅力を再確認する展覧会を実施し、その集大成としてドイツ人フラワーアーティスト、モニカ・ニーランド氏による爲三郎記念館を舞台とした生花作品の展覧会を開催いたしました。

短い展示作業期間であるにもかかわらず、モニカ氏の精力的な創作活動と、それをささえる日本人スタッフの努力により、建物と庭園が持つ自然の姿と美しく調和した質の高い作品を多数作り出していただくことができました。

また、海苔やゴザといった日本特有の素材を取り入れた日本人にとってはユーモラスな作品は、日本人フラワーアーティストにとって新鮮な刺激になったのではないかと思います。

一般来館者にとっても、“爲三郎記念館の新しい魅力を発見した気がした”という声に代表されるように、伝統的な日本家屋の中に展示された慣習にとらわれない自由な発想による質の高い優れた作品の鑑賞は、違った視点から日本固有の文化を見直す契機になったのではないかと思います。

今回の数寄屋建築の建物と日本庭園の中での異文化作品の展示は、今後の美術館の在り方を検討する上で、新たな試みの一つとして評価されるのではないかと考えます。

(4) 新聞記事等

○新聞記事

朝日新聞（愛知県内版）平成 17 年 10 月 25 日 朝刊

○テレビ，関連誌等

東海テレビ放送「スーパーニュース」

平成 17 年 11 月 3 日

展覧会初日の様子を放映

スターキャット・ケーブルネットワーク「こちらスターキャット情報局」

平成 17 年 11 月 2 日

展覧会前日の展示作業の様子を放映

CBC ラジオ放送「つボイノリオの聞けば聞くほど」

平成 17 年 11 月 8 日

展覧会全体を紹介

ケイコとマナブ東海版 11 月号「狙い目レッスン最新 NEWS」

リクルート出版

講習会開催を紹介

月刊フローリスト 12 月号「人気デザイナーたちのフラワーワーク」

誠文堂新光社発行

展覧会を詳しく紹介（別紙参照）